

予算特別委員会での取り扱い意見（要旨）

2018年3月16日

まつざき 真琴

2018年度予算におきましては、乳幼児医療費助成について、対象児童が限られたものではありませんが、初めて、現物給付に踏み切られたことや、離島における特別支援教育において、保護者の意向を受け止めた形で高等部支援教室がスタートすることについては、一定評価するものです。

今、国において、社会保障費の自然増を含めた削減が進められる中で、県民の格差と貧困は広がり続けており、県が、県民の命や暮らしを守る役割を果たすことが求められています。

しかしながら、港湾整備において、今後さらに多額の事業費が予測される人工島、マリンポート鹿児島島の新たな岸壁の調査設計に3700万円。総事業費106億円の志布志光バルク戦略港湾整備に6億2000万円が計上されています。

マリンポートかごしまにはこれまで総事業費267億円が費やされていますが、県負担の173億円のうち約91%は借金によるものです。工業用水事業における万之瀬川導水事業、川辺ダム建設も、企業が負担する工業用水道料金の値上げとに結びついています。

マリンポートかごしまには、昨日、過去最大の豪華客船が入港したことが報道されておりましたが、平均して8時間程度の停泊時間に、実際にどれだけの県民への経済効果があるのか、しっかりと検証し、これ以上の事業費を計上しての整備は慎重であるべきです。

優先順位として、借金を頼りにした大型開発の事業よりも、県民の福祉や暮らしの向上に直接結びつく事業や県内企業の99.9%を占める中小零細企業への支援を強めるべきと考えます。

以上の理由により、議案第20号、議案第23号、議案第29号、議案第31号については否決、残る議案第21号など議案8件については可決でお願いいたします。